

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23601001

研究課題名(和文) 冒険遊び場における子ども環境のネットワーク化に関する研究

研究課題名(英文) A study on the network of children's environment in the adventure playground

研究代表者

佐藤 慎也 (Sato, Shinya)

山形大学・教育文化学部・教授

研究者番号：20260424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：冒険遊び場のネットワークについて地域内のコミュニティネットワーク、地域を越えた冒険遊び場に関わるネットワーク等に着目し、東日本大震災前後の取組みの変化に着目しながら調査を行った。地域内のコミュニティネットワークでは保護者間、子育て支援組織、町内会組織、学校組織、地域施設との連携を軸に事例研究を行った。地域を越えたネットワークでは東日本大震災を契機に多くの支援活動が展開されており、復興期を迎え、地元団体の自立支援に向けた活動へ新たな試みが始まっている。

研究成果の概要(英文)：We research two type of networks for adventure play park before and after the Great East Japan Earthquake. First research is Community network in the region area. The other research is focus on the adventure play park associational network beyond the area. It was investigated while focusing on the changes in the efforts before and after the Great East Japan Earthquake. Between the parents in the community network in the region, parenting support organization, neighborhood association organization, school organization, it was carried out case studies in the axial cooperation with local facilities. Many support activities in the wake of the Great East Japan Earthquake in the network beyond the region have been expanded, and celebrated the reconstruction period, has begun a new attempt to activities aimed at independence support of local organizations.

研究分野：子ども環境

キーワード：冒険遊び場 ネットワーク化 こども環境 遊び環境 子育て支援 コミュニティ再生

1. 研究開始当初の背景

1988年に夏休みのイベントとして開催されていた仙台冒険遊び場が2000年から開催場所を台原森林公園から西公園に移したのを契機に常設化に向けたステップを歩み始めた。2005年からは年間200日程度の開催を行ってきている。同時に「ちびパーク事業」という乳幼児向けの活動を子育て支援施設を運営する「ファミリーサポートネットワーク」と協働で行うことで冒険遊び場内での親同士のネットワークが生まれてきている。もう一方で2005年には宮城県内で冒険遊び場づくりを続けてきた人々から生まれたNPO「冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク」と、造園会社との共同企業体が、冒険広場を含んだ都市公園を指定管理者として運営・管理する全国初の試みがなされてきた。

仙台市での冒険遊び場も活動を始めてから現在の状況に至るまで20年余り経過しており、当初、プレーリーダーとして参加していた高校生や大学生、社会人も現在は、他のプレーパークの活動や仙台市内の児童センターの活動の運営・支援に携わるように活動の幅が広がってきている。

冒険遊び場の地域政策化の研究では、冒険遊び場のタイプを地理的条件で分類し、環境整備に向けた視点を明らかにするとともに、地域の保護者のニーズに応える形で、子育て支援策の一環として自治体が冒険遊び場の運営支援に取り組む事例が増加していることがわかってきた。2008年には学会会議においても、「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて-成育空間の課題と提言-」の中で、(1)子どもが群れる場の重要性、(2)多くの人によって子どもが育まれる場の重要性、(3)子どもの視点に立つ環境形成の場の重要性が掲げられていた。

2. 研究の目的

本研究では、こうした子どもの成育環境形成のための取り組みに着目し、冒険遊び場における子育てグループの活動、支援方法を含め、地域子育てネットワーク成立のための政策の可能性を検討する。特に本研究開始前に発生した東日本大震災後の冒険遊び場における保護者によって成立した子育てグループならびに地方自治体における子育て支援施策を解明し、新たな地域再生のための子ども環境のネットワークの構築に向けた課題と方策を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、大きく3つの段階に分けて、課題の探求を行った。第一段階では平成23~24年度にかけて冒険遊び場の保護者の利用状況ならびに保護者の役割についての整理を行った。冒険遊び場のマネジメント方法の変遷に関する調査についてもこの段階から着手した。第二段階としてNPOならびに自治体による冒険遊び場などの運営への支援状況に関わる調査は平成23年度末に準備を行い、平成23~26年度にかけて調査を実施し

た。第三段階の研修プログラムの開発および子育て支援ネットワーク構築プロセスについての検討は平成24年度後半から調査準備を行い、平成24年度後半から26年度前半にかけて実施した。平成26年度には全体の総括を行った。

4. 研究成果

(1) 東日本大震災後の冒険遊び場の広がり

本研究をスタートするに当たり、2011年3月に発生した東日本大震災により子どもたちの置かれている環境が大きく変化した。東日本大震災の特徴としてはM9.0という巨大地震のため、5分以上の地震動が続き、多くの余震も発生したこと、巨大津波が発生し、500kmに及ぶ範囲で被災地が広がり、2万人近くの人命が奪われたこと、原子力事故が発生し、放射能による汚染のために数十万人という単位で避難等による生活影響が生じたこと、などが挙げられる。については、地震・津波による身体的な被害だけではなく、心的不安が子どもたちだけではなく、大人にも広がったこと、については居住地全体あるいは部分的に被災したために避難所生活、仮設住宅、復興住宅へと生活者にとって大きな変化を必要とし、大人にとっての生活再建もままならず、子ども環境への配慮がなかなか困難な状況にあったこと、原子力事故によって自主避難者も含めて多くの人たちが居住地を離れ、新たなコミュニティに加わることで、環境変化に伴う心理的な負担が生まれたことなどが生じた。

こうした中、冒険遊び場は各地で新たな動きが生まれることになった。

一つの動きとしては、既存の冒険遊び場の新たな役割である。冒険あそび場せんだい・みやぎネットワークでは、震災前に仙台市近郊に立地する3つのプレーパークのネットワークおよび海岸公園冒険広場の共同企業体を形成しての運営団体としての役割を担ってきたが、震災後には、子ども環境を基軸にした地域コミュニティ再生の役割を担いつつある。そこには、地域・行政との運営協議会を形成しながら、保護者の参加の仕掛けづくりも進行している。

また仙台市の西公園プレーパークでは、震災後にネットワーク相互の連絡場所となるだけではなく、石巻市河北地区の亀ガ森公園での遊び場づくりを支援してきている。こうした若手グループを中心にした支援活動を通して継続的に支援を続ける新たなプレーリーダーも誕生している。

もう一つは、新たに冒険遊び場の運営を始める動きである。表1は東北地方における冒険遊び場の概要をまとめたものである。

23~26の冒険遊び場以外は東日本大震災後新たに取り組みが始まった遊び場である。始まった経緯については、外部からの支援活動に入った組織によって立ち上げられたもの、地元のニーズを汲んで地域と協働で始まったもの、大学や学生が中心になって始まった

もの、震災前からの学童保育の活動に冒険遊び場の活動を組合せたものなどがある。

表 1 東北地方における冒険遊び場の概要¹⁾

名称	所在地	運営
1 野田小学校プレーパーク	岩手県野田村	不定期
2 大槌小 みんなのあそび場	岩手県大槌町	月 1
3 ぼうけんあそびばまきばっこ	岩手県陸前高田市	週 4
4 中里小学校こぼとクラブ	岩手県一関市	不定期
5 あそび一ぱー	宮城県気仙沼市	週 5
6 くりの木ひろば	宮城県気仙沼市	週 4
7 馬籠小学校遊び場	宮城県気仙沼市	不定期
8 歌津てんぐのヤマ学校	宮城県南三陸町	週 2
9 登米の遊び場	宮城県登米市	不定期
10 日枝神社の遊び場	宮城県栗原市	不定期
11 うらやまでプレーパーク	宮城県石巻市	週 4
12 にっこりプレーパーク	宮城県石巻市	休止
13 亀ガ森冒険遊び場	宮城県石巻市	月 1
14 プレーパークやっぺす	宮城県石巻市	月 1
15 黄金浜ちびっこあそびば	宮城県石巻市	毎土日
16 石巻プレーパーク in 中瀬	宮城県石巻市	隔週
17 石巻プレーパーク in 開北小	宮城県石巻市	休止
18 石巻プレーパーク in 住吉小	宮城県石巻市	休止
19 石巻プレーパーク in 牧山	宮城県石巻市	不定期
20 湊小学校遊び場	宮城県石巻市	不定期
21 にこにこプレーパーク	宮城県石巻市	月 1
22 子どものまち・いしのまき	宮城県石巻市	年 1
23 りふプレーパーク	宮城県利府町	不定期
24 西公園プレーパーク	仙台市青葉区	週 4
25 ふるじろプレーパーク	仙台市若林区	月 1
26 海岸公園冒険広場	仙台市若林区	休止
27 六郷あそび場	仙台市若林区	週 1
28 ニッペリアあそび場	仙台市若林区	週 1
29 七郷あそび場	仙台市若林区	週 1
30 荒井 2 号公園あそび場	仙台市若林区	週 1
31 上荒井公会堂あそび場 ちびひろ	仙台市若林区	週 1
32 荒井小用地仮設住宅のみんな であそぼう会	仙台市若林区	週 1
33 御町五丁目あそび場	仙台市若林区	週 1
34 若林小学校あそび場	仙台市若林区	不定期
35 中野小学校あそび場	仙台市若林区	不定期
34 山形プレーパーク	山形市	不定期
35 みんな共和国	福島県南相馬市	不定期
36 伊達市あそび広場	福島県伊達市	不定期

外部からの支援組織によって立ち上げられた活動の中には、保護者や地域住民の人たちの組織を立ち上げ、運営の形態を地域主体に変化させたものも見られた。

(2) 冒険遊び場マネジメントについて

冒険遊び場のマネジメントについて保護者ならびに自治体との連携に着目して事例分析を行った。横浜の事例では、2002年に誕生した横浜にプレイパークを創ろうネットワークを軸に行政（横浜市環境創造局）との連携、自治会との対応を行いながら、21カ所（2013.7 現在）に及ぶプレーパーク事業の展開がなされている。一方で横浜市子ども青少年局では放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブを運営（委託・指定管理を含む）している。プレーパークの中には学校の校庭を利用したものもあり、はまっ子ふれあいスクールの通学している学校の子どものたちを対象にした考え方と広域的に利用者を許容する考え方とが対立してしまう場面も見られ、コミュニティの領域をどのように考えるか、子どもの成育環境づくりに向けた地域でのマネジメント方法の改善の必要性が求められる。

被災地の事例として冒険あそび場せんだい・みやぎネットワークでは、仙台市荒浜にあった仙台市海岸公園冒険広場の指定管理者として造園業者との共同企業体を形成して活動を行っていたが、津波により周辺集落も含めて被災し、冒険広場は休園を余儀なく

された。

冒険あそび場せんだい・みやぎネットワークは、管理棟機能を海岸公園冒険広場と仙台市青葉区の事務所とに分けて実施してきたが、海岸公園冒険広場管理棟が水没したことにより、備えていた情報機器類も被災したため、主に仙台市青葉区の事務所を拠点に残ったデータベースを基に管理機能を再構築した。2011年1月に産直広場ぐるぐるの新規市内の需要に応えるために開設した若林区内の詰所兼店舗は、被災を免れ、各地から届けられる支援物資の配布活動を行なった。

冒険あそび場せんだい・みやぎネットワークに所属する西公園プレーパークの会は、市内中心部に位置しており、3月末には互いに無事を確認しながら活動を再開した。海岸公園冒険広場のプレーリーダーも再開した西公園プレーパークの支援に応じた。

2011年5月からは、避難所生活の子どもたちへの支援として六郷小学校の校庭を使ったあそび場を日曜日に開催することになった。8月には仮設住宅の立地する七郷地区の荒井2号公園と六郷地区のニッペリア仮設住宅地で開始し、9月には荒井4号公園と市内4箇所での遊び場を実施するに至った。

これらを実施するに当たっては、民間活動助成、指定管理に関わる冒険広場の休園管理、冒険広場のサテライト業務のほか、新しい公共事業、社会包摂事業、新しい東北事業など被災地の遊び場活動を通じたコミュニティ再生事業として子どもの遊びと高齢者の能動的な参加という新たな視点を立ち上げることで活動地域を広げてきている。活動を行うにあたっては運営協議会を形成し、行政、学校、町内会、子育てに関わるNPO、コミュニティ形成に関わるネットワークなどと連携することで多くの視点から遊び場づくりを協議でき、避難所生活、仮設住宅、復興公営住宅と変化するコミュニティ環境に迅速に対応できる体制を整えた。こうした中で、保護者の遊び場づくりへの参加を促しながら、親子の主体性の回復を展開してきている。

(3) 地域研修としてのプレーパークの試み

2011年度から始まった「子どもと築く復興まちづくり」プロジェクト（日本ユニセフ協会、竹中工務店、山形大学共催）では、創造性を育む中長期的な復興の担い手づくりのプロセスとして「子どものまち」、「冒険遊び場」、「まちづくり学習」を進めてきた。冒険遊び場については主に日本冒険遊び場づくり協会東北事務所が立ち上げられ、そちらが中心となり、移動式で遊び場づくりを行うプレーカー事業が行われた。

もう一方で岩手県大槌町では、平成24年度から小釜川河川敷を使ったプレーパークの検討が行われたが、公園整備の状況が整わず見送られてきた。平成26年度には民有地を活用して里山まるごとプレーパーク構想が描かれ、8月から翌年2月まで計5回に渡り、地域研修型イベントとして実施された。

表2 里山まるごとプレーパークの実施状況

	実施日	内容
1.	準備 8月1日 実施 8月2日	プレーカー搭載の遊び道具による遊び ケヤキ・雑木を活用したブランコ ボートを活用した水遊び ブルーシートを活用した幼児向けプール ヘリ運搬用ネットを使ったトランポリン 薪ストーブを使った遊ぼうパン作り スイカ割り 廃材を利用した四角錐状テント骨組み ハート型の形状を活かした花壇づくり 地元工房作成の木ゴマあそび
2.	整備 9月20日 9月21日	当初整備した花壇の一部植替え 二つ目の花壇の設置および花壇整備 ヘリ運搬用ネットを用いた遊具の点検 ※秋祭りのため整備のみ
3.	準備 10月24日 実施 10月25日	プレーカー搭載の遊び道具による遊び ケヤキ・雑木を活用したブランコ ヘリ運搬用ネットを使ったトランポリン カマド、薪ストーブを使った芋煮づくり イガ栗を用いた焼き芋づくり 四角錐状テント見晴台づくり 伐採樹木を用いた小屋づくり 2つの花壇の植栽整備
4.	準備 1月8日 実施 1月9日	障害者支援施設四季の郷での開催 小正月飾りみずき団子づくり 綿菓子作り 凧づくり ヘリ運搬用ネットを使ったトランポリン
5.	実施 2月21日	座談会の開催 学生による模型・パネルを用いた未来像の発表 グループごとの未来像についての話し合い

里山まるごとプレーパークの構想では、民有地の近隣施設の連携と幼稚園、子どもの遊びを支援する団体との連携が図られ、工房からの資材、木ゴマづくりの機会の提供、障害者施設での冬の正月行事の協同実施、日本冒険遊び場づくり協会、三陸ひとつなぎ自然学校からのプレーリーダー、プレーカーの派遣、学生への実地研修、行政職員、地元若者団体の視察など里山まるごとプレーパークの小鎚地区での位置づけがなされるに至った。

大槌での活動は今後、地元主体で活動できるように行政、地元主宰者との協議を行っている。地域で子どもの遊び場づくりを進める団体と連携しながら保護者の主体的な取組みにどのように結びつけていくかが次年度以降の取組みとして期待される。

(4)まとめ

被災地を中心に子どもの遊び環境の再構築が地域コミュニティ再生に向けた取組みに繋がる事例を挙げたが、それぞれ地域の中にあるこども環境に関する資源を有機的にネットワークとして繋げていく地域コーディネーターの存在の必要性が改めて挙げられている。地域コーディネーターの役割として 子ども環境形成のための地理的環境の読み込みと整理、 地域にあった環境的要素、材料道具の利活用、 学校、町内会、近隣施設、子ども関係団体等との活動意義・活動内容・時期に関する調整協議、 中長期的なこども環境の変化の把握と遊び環境に関する計画の策定など被災地における震災復興途上での冒険遊び場のあり方の検討を通して把握できたものが挙げられた。

今後の研究では、こども環境の再構築とと

もに地域再生に結実していくプロセスを地域コーディネーターの役割としてより詳細に解明していくことが求められる。

1) 日本冒険遊び場づくり協会が確認した震災後行われた外遊びを中心にした遊び場づくり活動の一覧(協力:西公園プレーパークの会)を基に一部活動を加筆修正したもの(2013.3時点のもの)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

佐藤慎也、大槌さとやままるごとプレーパークの試み、日本建築学会大会学術講演梗概集 2015(都市計画)、掲載予定、査読なし、2015-09

佐藤慎也、東北地方における冒険遊び場の運営についての事例研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 2014(都市計画)、217-218、査読なし、2014-09-12

佐藤慎也、東日本大震災後2年を経過した冒険遊び場の役割と課題について、日本建築学会大会学術講演梗概集 2013(都市計画)、1169-1170、査読なし、2013-08-30

佐藤慎也、東日本大震災における冒険遊び場の対応 震災前の取り組みと復興に向けた今後の課題-、日本建築学会大会学術講演梗概集 2012(都市計画)、761-762、査読なし、2012-09-12

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐藤 慎也 (Sato, Shinya)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号：20260424